未来型介護施設：AIカメラ管理システム導入提案
AIが「目」となり、スタッフが「手」となる

「見守り」をデータ化し、ケアの質と経営効率を両立させる

スライド 2：現状の課題（解決すべき背景）

- **タイトル**：介護現場の疲弊と「限界」
- **ポイント**：
  - 介護スタッフ同士の情報連係ミスのリスク
  - ヒューマンエラー（誤薬・転倒の見落とし）のリスク
  - 全業務の3割を占める「記録業務」による直接ケアの減少
  - 夜間巡回によるスタッフの肉体的・精神的負担

スライド 3:システムの全体像

- **タイトル**：24時間・非接触の「デジタル見守り」
- AIが「目」となり、スタッフが「手」となる
- **構成要素**：
  - **AIカメラ**：骨格検知でプライバシーを保護しつつ行動を可視化
  - **バイタルセンサー**：非接触で心拍・呼吸を 24時間監視
  - **ミリ波レーダー**：睡眠時の呼吸・心拍の常時モニタリング
  - **エッジ AI**: 施設内でデータを即時処理（プライバシー保護）

スライド 4：4大自動確認機能

- **タイトル**：スタッフに代わる「4つの確かな目」
- **詳細**：
  1. **食事**：摂取量・嚥下動作の自動解析
  2. **病気**：歩行パターンの変化から疾病を予兆検知
  3. **トイレ**：排泄リズムの把握と失禁防止の予測
  4. **服薬**：口への運搬を確認し、確実な服薬をサポート

スライド 5：スタッフ専用管理画面

- **タイトル**：直感的な判断を支えるダッシュボード
- **特徴**：
  - 優先度の高いアラートを最上部に表示
  - 「10分後にトイレ予測」などの先回りアドバイス
  - 介護ソフト連携による「記録の自動化」

スライド 6：ご家族への安心対応

- **タイトル**：プライバシー保護と尊厳の守護
- **内容**：
  - 映像を保存せず、棒人間（データ）として処理する仕組み
  - ご家族向けQ&Aと、法的・倫理的同意書の整備
  - 「AIがいるから、人はもっと寄り添える」というビジョン

スライド 7：導入ロードマップ

- **タイトル**：12ヶ月の導入・定着スケジュール
- **ステップ**：
  - 1-3ヶ月：準備・機器選定・ご家族説明
  - 4-6ヶ月：特定フロアでのモデル運用・AI調整
  - 7-12ヶ月：全館拡大・介護記録ソフト連携の開始